

答えのない問い

校長 山田 浩之

「どら焼きがいいか、浮島がいいか」これは難問です。というより、正解がありません。立場によつて意見が分かれますし、何を大切にするかによつても違つてきます。

四年生の教室で、新潟の歴史の重要な一コマを彩る「北前船」をスイーツとして形ある物にするには、どら焼きか浮島かという問題が、議論されました。子どもたちは、北前船の形や荒海を航海する様子をスイーツに表現することで新潟の歴史に興味を持ち、古町や新潟の魅力を感じてほしいと考えています。お菓子のイメージ図も出来上がっています。そこで、お菓子の職人さんから、先の二つのスイーツが提案されたわけです。北前船は、まだ装飾されていませんが、お菓子の実物も持つてきてくれました。

子どもたちは、北前船について調べ知識もかなりもち合わせています。北前船の歴史にも誇りや愛着をもっています。当然、スイーツにそれらを表現して、詳しく伝えたいという願いをもっています。と、同時にたくさんの人に伝えたいという思いも抱いています。

浮島の方が元々のデザインに合いそうですが、どら焼きもよさそうです。

そんな時、値段の話になり、どら焼きと浮島では、浮島の方が二百円ほど高くなるという情報が、職人さんから伝えられました。これまで子どもたちがあまり気に留めてこなかった情報です。ここで、班での相談の時間となりました。「値段が安いと手に取りやすいから、たくさんの人に買ってもらえなう」どら焼きの焼き目が、ランダムになっているので、本物の波のようだが「浮島はケースに入っているけど、どら焼きは袋に入っていて手軽に食べられる」などと、班での検討で作り手だけでなく、消費者の視点も入ってきて、どら焼きに世論が傾きました。

文部科学省中央教育審議会の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」には、『予測困難な時代』、(中略) 私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論」することが求められている、とあります。

古町スイーツは、十二月一日に販売予定です。子どもたちは、スイーツ開発という課題に向き合いながらスイーツとともに成長してきました。